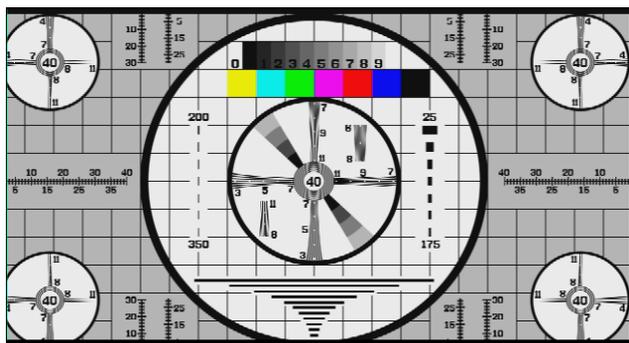
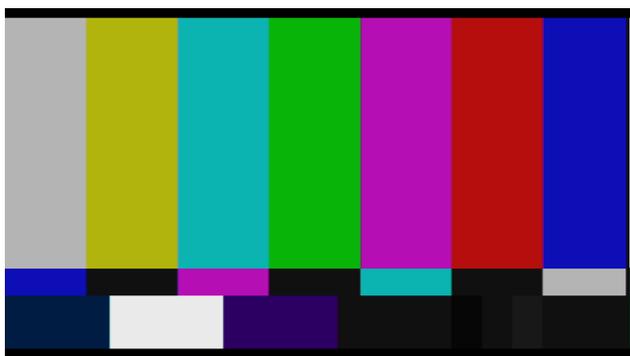


PIP-2021FS操作画面例



参考画面 1

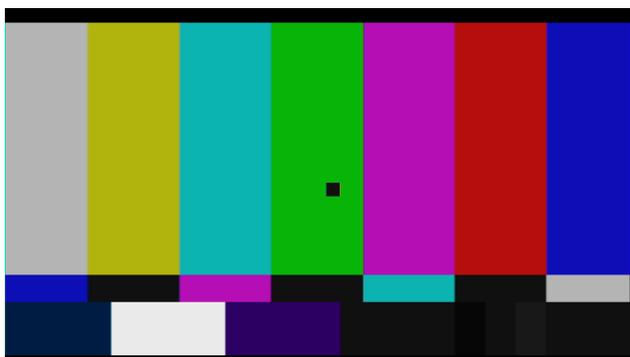
メイン信号として入力した映像です。



参考画面 2

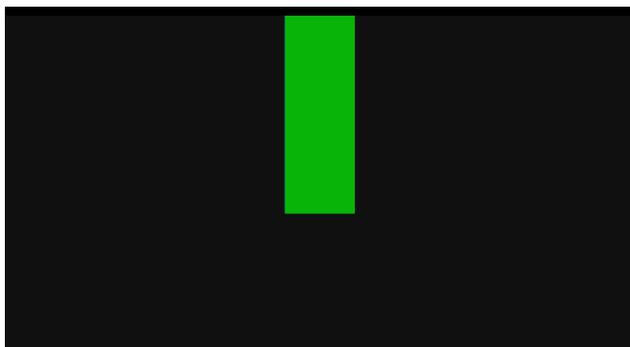
サブ信号として入力した映像です。

”UP”ボタンを押した状態で”SET”ボタンを押すと”SUB”表示が点灯します。



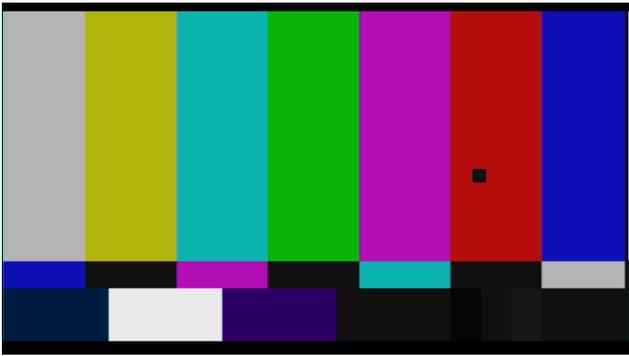
参考画面 3

参考画面 2の状態のまま”UP”ボタンを押し続け”SET”ボタンを押すと”SET1”の表示が消灯し、出力画面も消えます。この状態で”SET”ボタンを押すと”SET1”の表示が速い点滅状態となり、出力画面にマーカーが表示されます。このマーカー部分の画像を”SET1”に記憶します。記憶する画像の位置を変更するには、”HOR”つまみと”VER”つまみで位置を移動させます。移動は左右、上下に移動しますが、移動の反転は”UP”ボタンのON/OFFで決めます。マーカーの位置が決まれば、”SET”ボタンを押します。



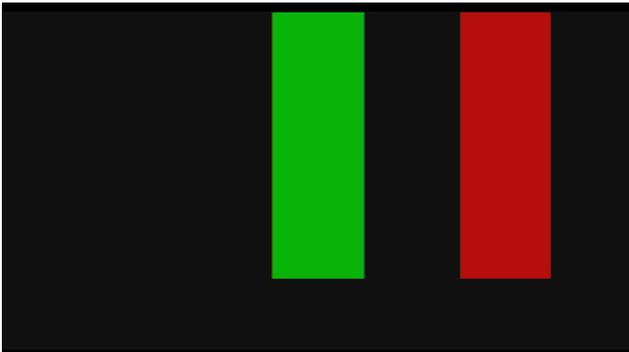
参考画面 4

”SET”ボタンを押すと画面はマーカーの位置の画像のみ出力されます。 ”SET1”の表示は点灯となります。 ”SET”ボタンを押す度に参考画面3と参考画面4が交互に出力されます。



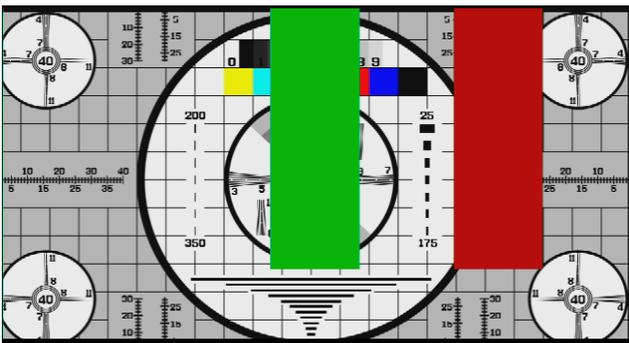
参考画面 5

”UP”ボタンを押した状態で”SET”ボタンを押します。
 ”SET2”の表示が消灯します。
 この時、”SET”ボタンを押すと参考画面3の画面となります。
 ”HOR”ツマミと”VER”ツマミでマーカ-の位置を移動します。
 参考画面5はマーカ-の位置を赤の部分に移動した状態です。
 ”SET”ボタンを押すと赤の画像が”SET2”に記憶されます。



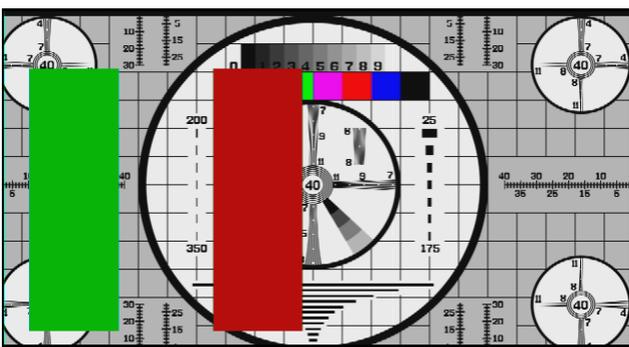
参考画面 6

この画面は”SET1”と”SET2”に記憶された映像を出力したものです。
 ”SET”ボタンを押す度に参考画面5と参考画面6が交互に出力されます。



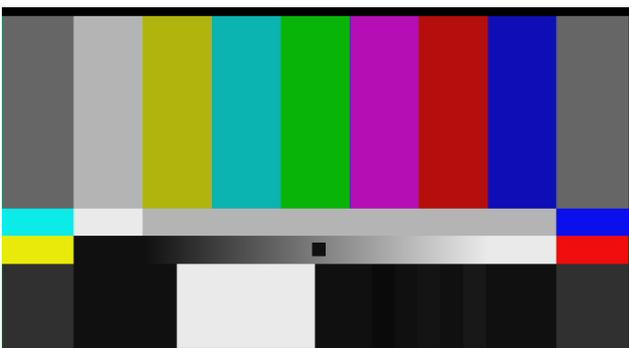
参考画面 7

”UP”ボタンを押した状態で”SET”ボタンを押し、
 ”SET1”～”SET5”の表示が全て点灯状態になればメイン画面のなかに記憶されたサブ画面が重畳されます。



参考画面 8

この画面は重畳されたサブ画面の位置を”HOR”ツマミと”VER”ツマミで移動させた画面です。



参考画面 9

サブ画面に入力した映像です。
 ”SET1”の場所は明るさに変化のある場所に設定しました。
 設定した場所の映像を見ると参考画面10のように一部分の画像となります。
 設定場所の映像データを”1”から”64”に広げた場合は参考画面11のように広い範囲の映像を記憶することが出来ます。



参考画面 10

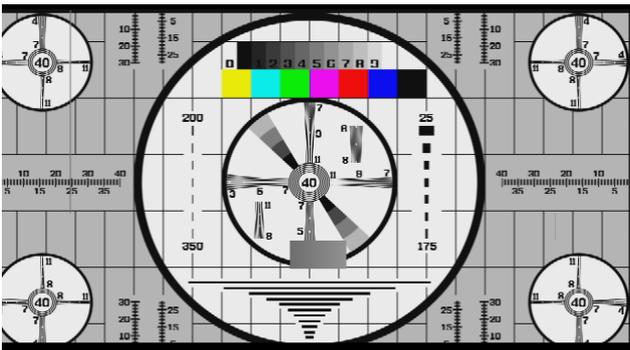
設定場所の映像データが”1”の場合



参考画面 11

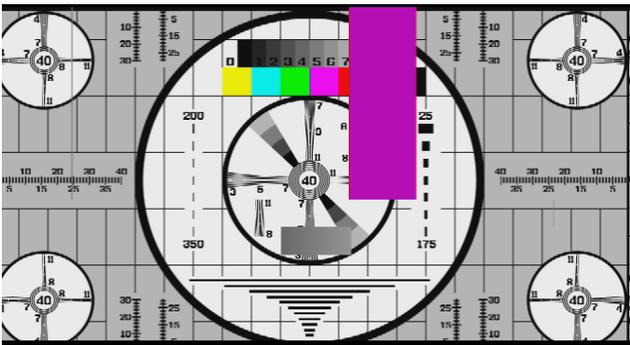
設定場所のデータを広い範囲に設定した画面

↑
広い画像(データ”64”)



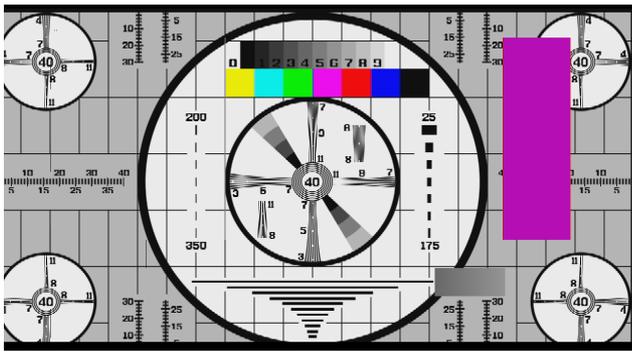
参考画面 12

広い範囲の映像をメイン画面に重畳した時の出力画面です。



参考画面 13

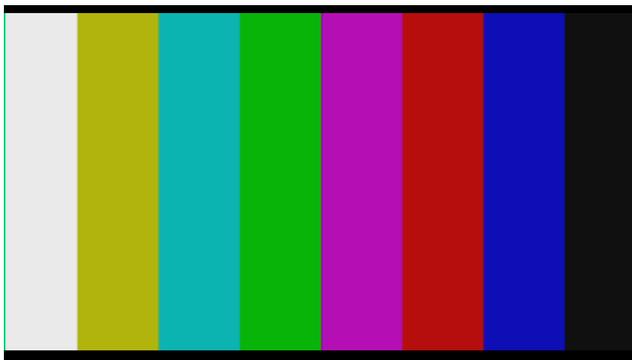
広い範囲の映像とマゼンタの映像を記憶し、メイン画面に重畳した時の出力画面です。



参考画面 14

重畳した画面を右方向、下方向に移動した画面です。

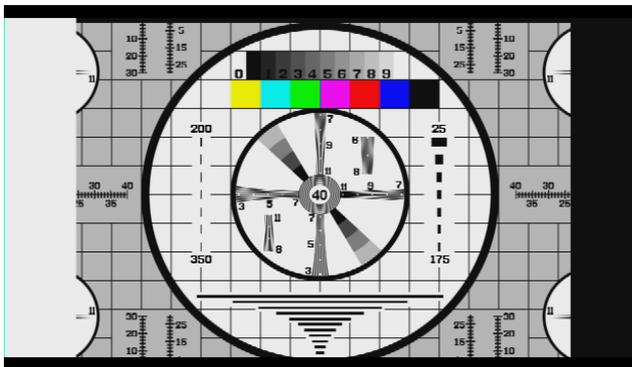
この様に取り出したい画面が多少の変化があっても取り出すことができます。
また、画像の記憶場所が5箇所あるため、5色の混在画面を取り出し、メイン画面に重畳することができます。



参考画面 15

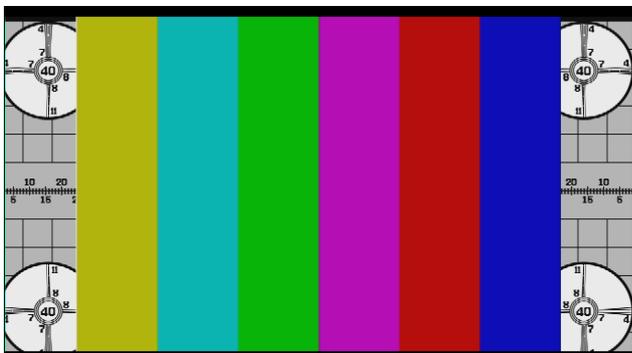
サブ画面として入力した映像です。

”SET1”に白部分、”SET2”に黒部分を設定(記憶)しました。



参考画面 16

メイン画面に白部分と黒部分を重畳しました。



参考画面 17

重畳するサブ画面を反転して、記憶した(”SET1”)と”SET2”の部分削除し、記憶部分以外のサブ画面をメイン画面に重畳した出力画面です。

”SET1”～”SET5”までの記憶部分をメイン画面に重畳する方法(参考画面16)と記憶部分を削除し、メイン画面に重畳する(参考画面17)方法があります。